



令和7年度

栃木県公立小中学校事務職員

研修会並びに総会



令和7年6月5日（木）、令和7年度栃木県公立小中学校事務職員研修会並びに総会が、宇都宮市文化会館において開催されました。開会式には栃木県教育委員会、栃木県中学校長会長、栃木県小学校長会長をはじめ、多くのご来賓の皆様に出席を賜りました。

総会では、令和6年度事業報告・決算報告、会則改正、令和7年度事業計画・予算案、また役員改選について、事前に行った書面決議により全て承認されました。新旧役員あいさつでは、3年間会長を務めた大森前会長と君新会長がごあいさついたしました。



研 修 会

宇都宮大学共同教育学部附属小学校・附属中学校 校長 近藤秀人 氏より「学校事務職員の強みを生かした人材育成のあり方～学び上手と育て上手であるために～」と題して、「栃事研の実践研究における現在地を確認する」、「学校事務職員の学校経営への具体的な参画方法を考える」、「学校事務職員の実践的力量形成（個人・組織）について考える」の三部構成で、ご講演くださいました。



講話の途中では、ミニ演習として近くに座った方との意見交換を交えながら進めてくださいました。

はじめに、平成27年に国立教育政策研究所より報告された「小中学校の学校事務職員の職務と専門的力量に関する調査報告書」から「学校事務職員に特に必要な資質、能力」を引用しながら、事務職員には「俯瞰する力」・「協働する力」・「参画する力」が重要であり、学校事務職員の強みを学校経営のあらゆる場面で活かしていかなければならぬとのお話がありました。また、栃事研の研究の現在地として、全国埼玉大会や関プロ群馬大会での提案内容を踏まえながら、「学校経営参画を果たすために必要な人材育成を進めていく」という栃事研が目指している方向性を分かりやすく整理してくださいました。

次に、事務職員の学校経営参画の在り方について、校長として望む参画の視点からお話しくださいました。校長は、学校の現状を内外環境分析の手法を用いたり、過去の学校評価や



職員会議資料、学校沿革誌などから情報を集めたりしながら、学校経営計画を策定しており、それを教職員で共有することにより学校教育目標の実現を目指している。事務職員には、教育内容に傾倒することなく、多角的、多面的な情報や企画提案することにより、教育目標の具現化に参加してほしいとのお話がありました。

そして事務職員の力量形成について、平成27年12月の中教審答申で示された「チームとしての学校像」や「サーバント・リーダーシップ」を引用しながらお話しくださいました。チームとしての学校像については、一番大事なのは教職員一人一人が力を発揮できる環境の整備が求められる部分であり、その教職員一人一人が自立し、持っている力を集めて協働することである。そして一人一人の研鑽が大事になるとご教授くださいました。

また、教職員が自ら考え、主体的に動けるように、校長と教職員が信頼関係を築くことが大切であり、そのことにより教職員に参画意識を持たせ、人材育成を進めていくのが良いこと。そして、学校事務職員としての力量形成・学校経営参画を意識することでの力量形成は、共同学校事務室という組織を生かした人材育成をしてほしいとのお話がありました。

育て上手・教え上手の自分であるためには、聞かない人を嘆くより、聞いてもらえる自分になることである。聞いてもらえる自分になるためには、心の扉を開けられる人になることである。また、おとなのプライドを大切に、人権にも敏感になることが大切であるとご示唆いただきました。

最後に、事務職員は情報マネジメントのプロであり、事務職員が持つ情報の量と質は学校にとって生命線である。また、学校における基幹的職員、トップマネジメントの一員であるので、校長を学校経営面から補佐できる高度な専門性を念頭に力量形成を図っていただきたい。栄事研をはじめとする地区や市町のネットワークでベテランも若手も、ともに伸びゆく環境を構築していくことが肝要となっていくので、それぞれの状況に応じた学校経営への参画と力量形成、栄事研としての人材育成がうまくいきますよう心より祈っておいますとのお言葉をいただきました。

